

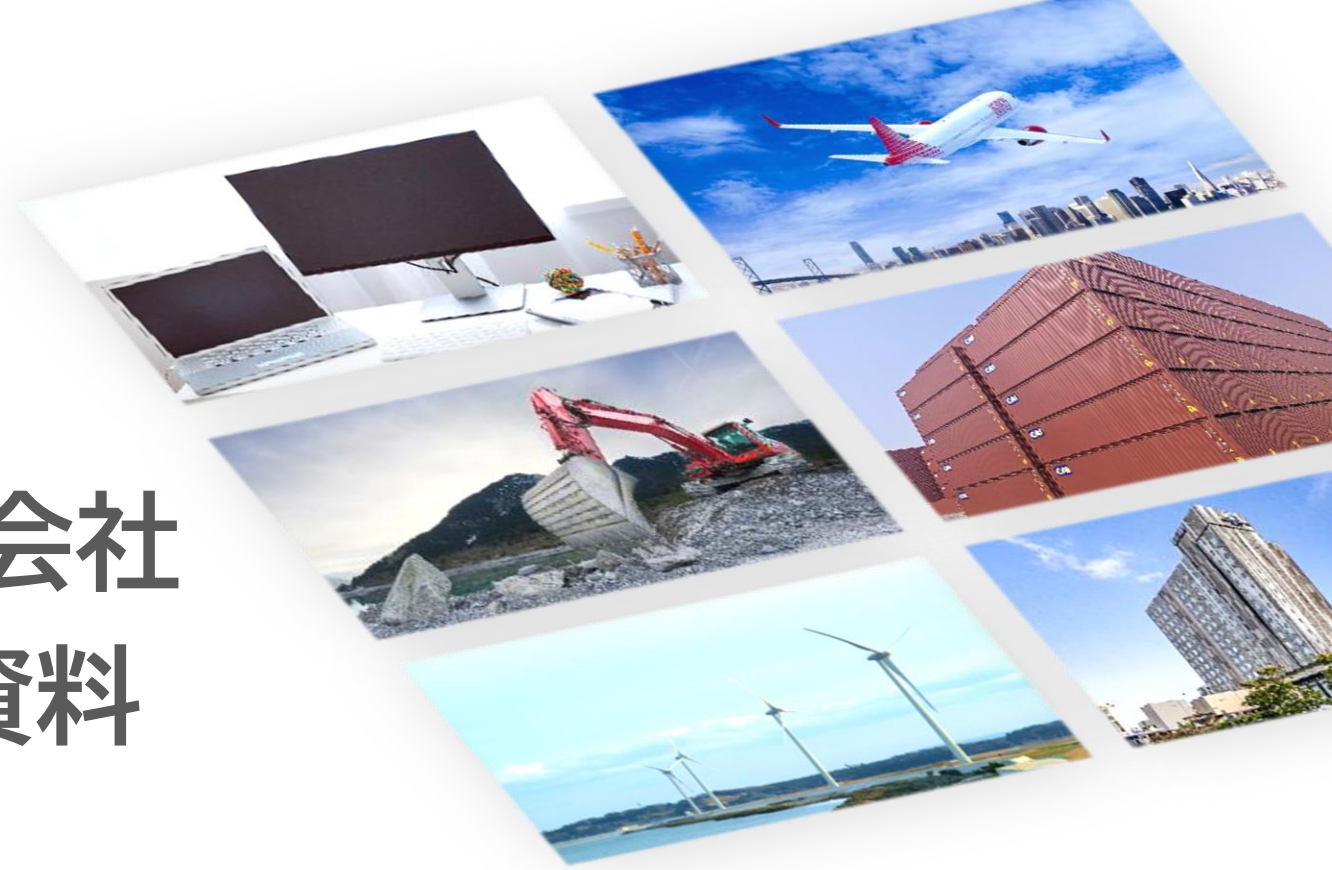
投資家の皆さまへ

# 三菱HCキャピタル株式会社 個人投資家向け説明会資料

2026年7月

|       |        |
|-------|--------|
| 時価総額* | 1.9兆円  |
| 株価*   | 1,351円 |
| 証券コード | 8593   |

\* 2026年7月3日終値ベース



- 本資料には、当社または当社グループの業績、財政状態、その他経営全般に関する予想、見通し、計画、目標等の将来に関する記述が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点で入手可能な情報から得られた当社の仮定や判断に基づくものであり、その性質上、一定のリスクや不確実性等が内在しており、将来に実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。このような事態の原因となりえる不確実性やリスクの要因は多数あります。
- 本資料に記載された計数は、それぞれ切り捨てて表示しており、端数が合計と合致しないものがあります。当社は、本資料に記載された情報を最新のものに随時更新する義務も方針も有しておらず、今後、予告なく変更されることがあります。
- 本資料は、日本国内外を問わず、投資誘導を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は利用者ご自身の判断と責任において行われますようお願いいたします。
- 本資料をご利用の結果生じたいかなる損害も、当社は一切責任を負いません。

## 本資料における表記・計数の定義

|        |                                     |             |                                                                                         |
|--------|-------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| ■ MHC  | :三菱HCキャピタル                          | ■ アセット関連損益  | : カスタマーソリューション・環境エネルギー・航空・ロジスティクス・不動産セグメントにおける保有資産に係る売上総利益ベースの売却損益および減損等(時価評価損益を含む)の合算値 |
| ■ EE   | :European Energy(再生可能・次世代エネルギー会社)   | ■ インカムゲイン   | :「アセット関連損益控除後の売上総利益」+「営業外損益(償却債権取立益を除く)」                                                |
| ■ JSA  | :Jackson Square Aviation(航空機リース会社)  | ■ 純利益       | :親会社株主に帰属する四半期または当期純利益                                                                  |
| ■ elfc | :Engine Lease Finance(航空機エンジンリース会社) | ■ ROA       | : $\frac{\text{純利益}}{(\text{前期末総資産額} + \text{当期末総資産額}) \div 2}$                         |
| ■ CAI  | :CAI International(海上コンテナリース会社)     | ■ ROE       | : $\frac{\text{純利益}}{(\text{前期末自己資本} + \text{当期末自己資本}) \div 2}$                         |
| ■ PNW  | :PNW Railcars(鉄道貨車リース会社)            | ■ セグメント資産残高 | :「営業資産残高」+「持分法投資残高」+「のれん」+「投資有価証券等」                                                     |
| ■ MUL  | :旧 三菱UFJリース                         |             |                                                                                         |
| ■ HC   | :旧 日立キャピタル                          |             |                                                                                         |

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 01   三菱HCキャピタルの概要     | P3  |
| 02   中期経営計画(2028中計)   | P16 |
| 03   事業(セグメント)紹介      | P21 |
| 04   2026年3月期 決算ハイライト | P30 |
| 05   ご参考資料            | P34 |

## 01 | 三菱HCキャピタルの概要

P3

## 02 | 中期経営計画(2028中計)

P16

## 03 | 事業(セグメント)紹介

P21

## 04 | 2026年3月期 決算ハイライト

P30

## 05 | ご参考資料

P34

|       |                                                    |
|-------|----------------------------------------------------|
| 商号    | 三菱HCキャピタル株式会社<br>(英文表記:Mitsubishi HC Capital Inc.) |
| 代表者   | 代表取締役 社長執行役員 久井 大樹                                 |
| 本社所在地 | 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号<br>新丸の内ビルディング                    |
| 上場取引所 | 東京証券取引所 プライム市場                                     |
| 証券コード | 8593                                               |
| 資本金   | 331億9,600万円                                        |
| 決算期   | 3月31日(年1回)                                         |

(2026年4月1日現在)



▲ 丸の内オフィス(本社)

# 数字でみる三菱HCキャピタル

## 設立



**1971年**

本年度創業56年目

## グローバルネットワーク



**世界20カ国以上**

## 従業員数



**連結 7,950名**  
2026年3月31日現在

## 外部信用格付(長期)

S&P    ムーディーズ    フィッチ  
A-        A3        A-  
JCR\*1    R&I\*2  
AA        AA

**業界トップ水準**  
2026年6月30日現在

## 総資産



**13.0兆円**  
2026年3月31日現在

## 純利益



**1,622億円**  
2026年3月期実績

## 株主還元



**27期連続増配\*3**  
連続増配ランキング第3位

## 配当利回り



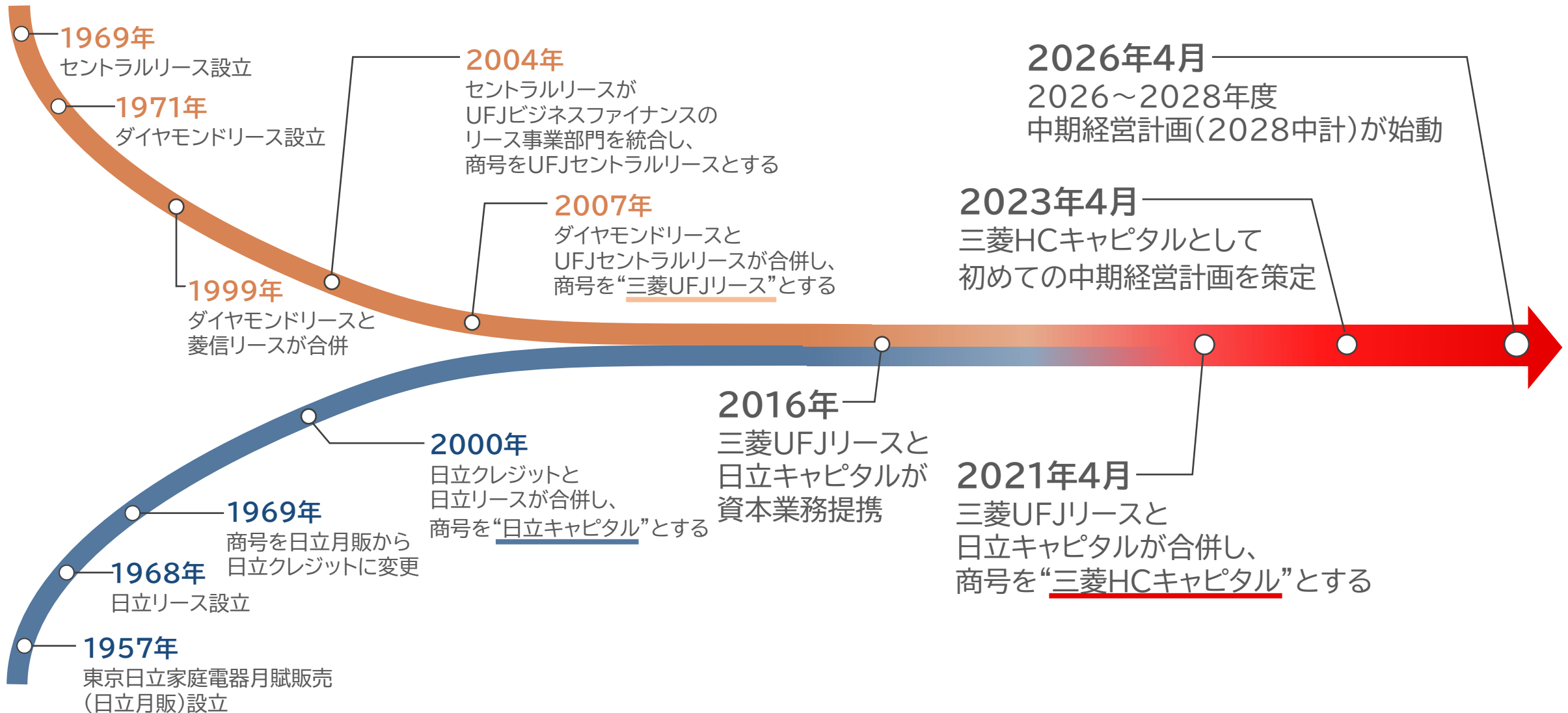
**3.77%**  
2026年7月3日現在

\*1 日本格付研究所

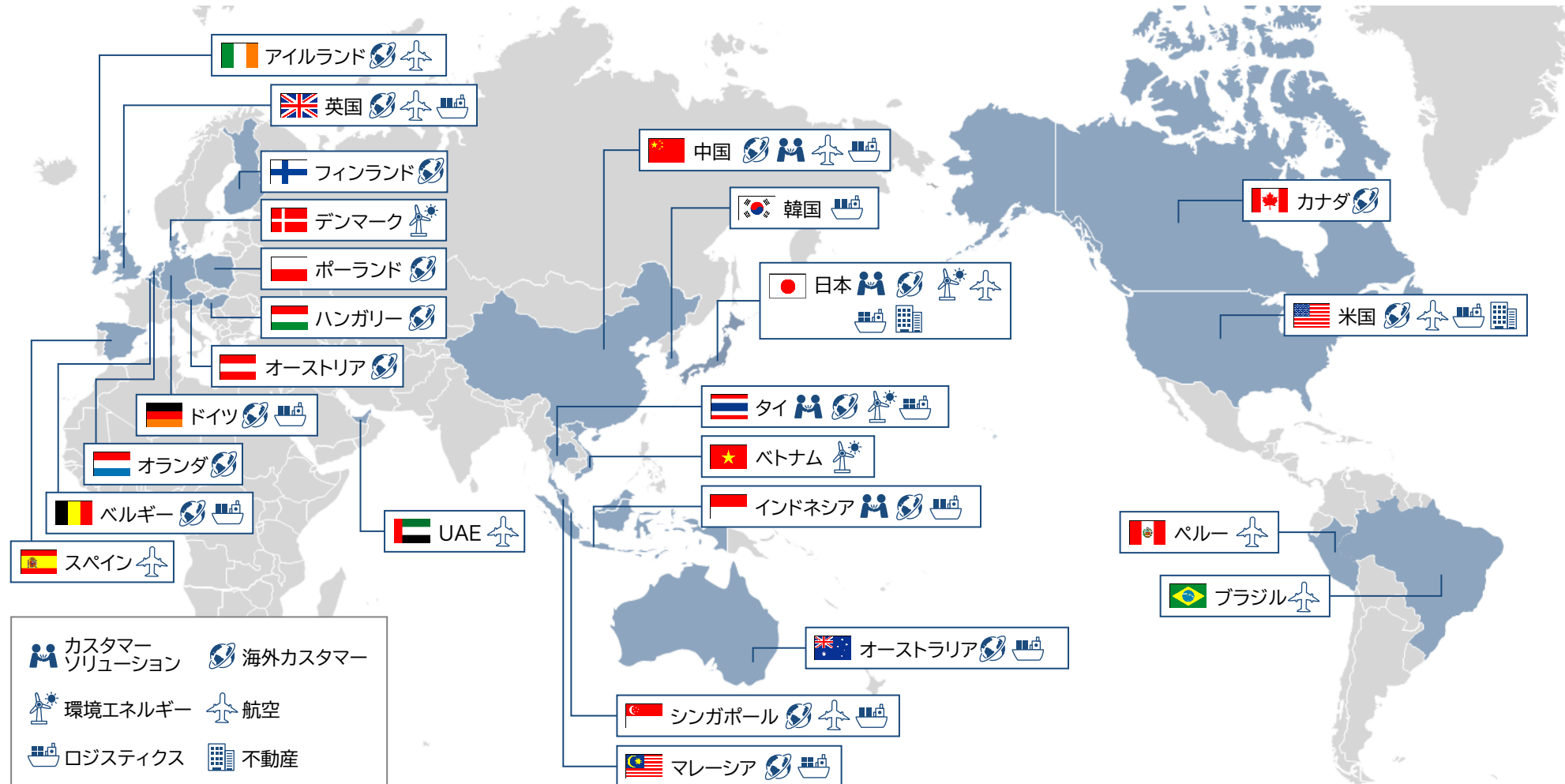
\*2 格付投資情報センター

\*3 2026年3月期までの実績





当社グループは20以上の国と地域に拠点を有し、グローバルに事業を展開



(注) MHCおよびその連結子会社と持分法適用関連会社の有人拠点が対象



当社株価は1999年以降の27年間で約11倍に成長(同期間のTOPIXは約3倍)  
株式投資の総合収益率を示す株主総利回りは27年で約1,300%

(1999年4月1日終値=100)

— 三菱HCキャピタル — TOPIX (東証株価指数)



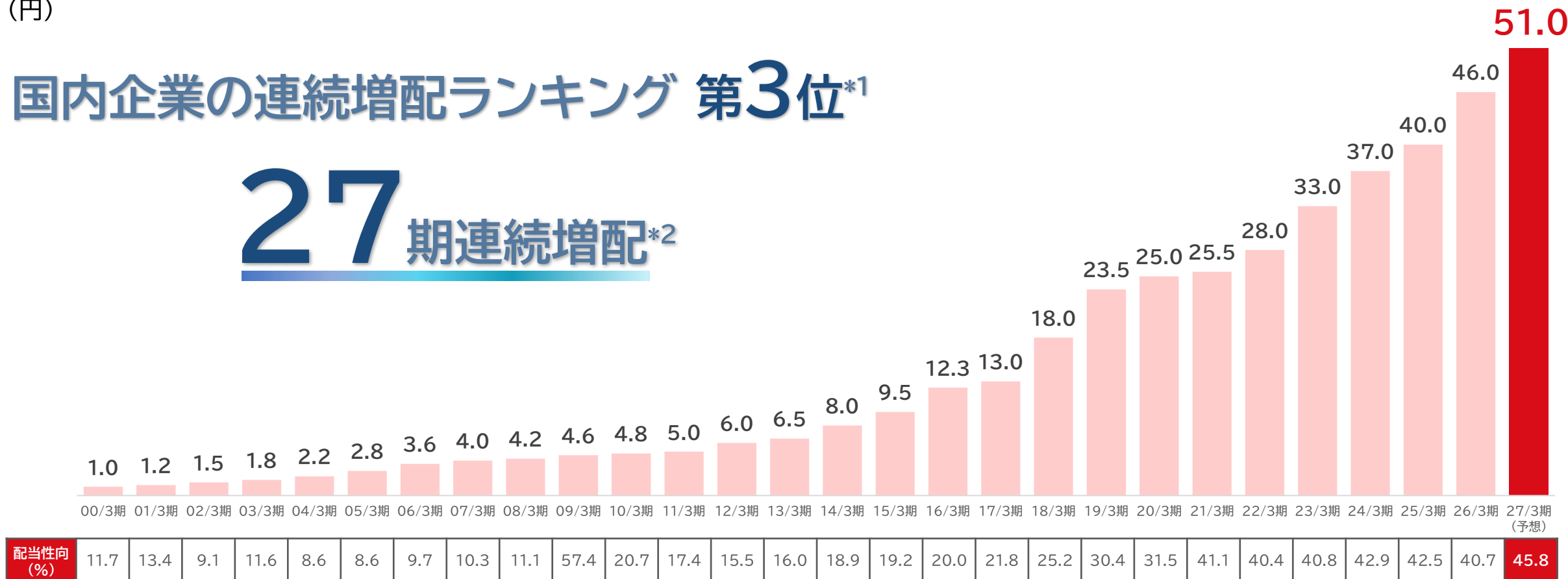
\* キャピタルゲインと配当を合わせた総合投資収益率。累積配当額と株価変動により算出

2026年3月期まで27期連続増配。国内企業の連続増配ランキング第3位(当社調べ)  
2027年3月期の1株当たり年間配当金予想は前期比5円増配の51円。28期連続増配の見込み

(円)

国内企業の連続増配ランキング 第3位<sup>\*1</sup>

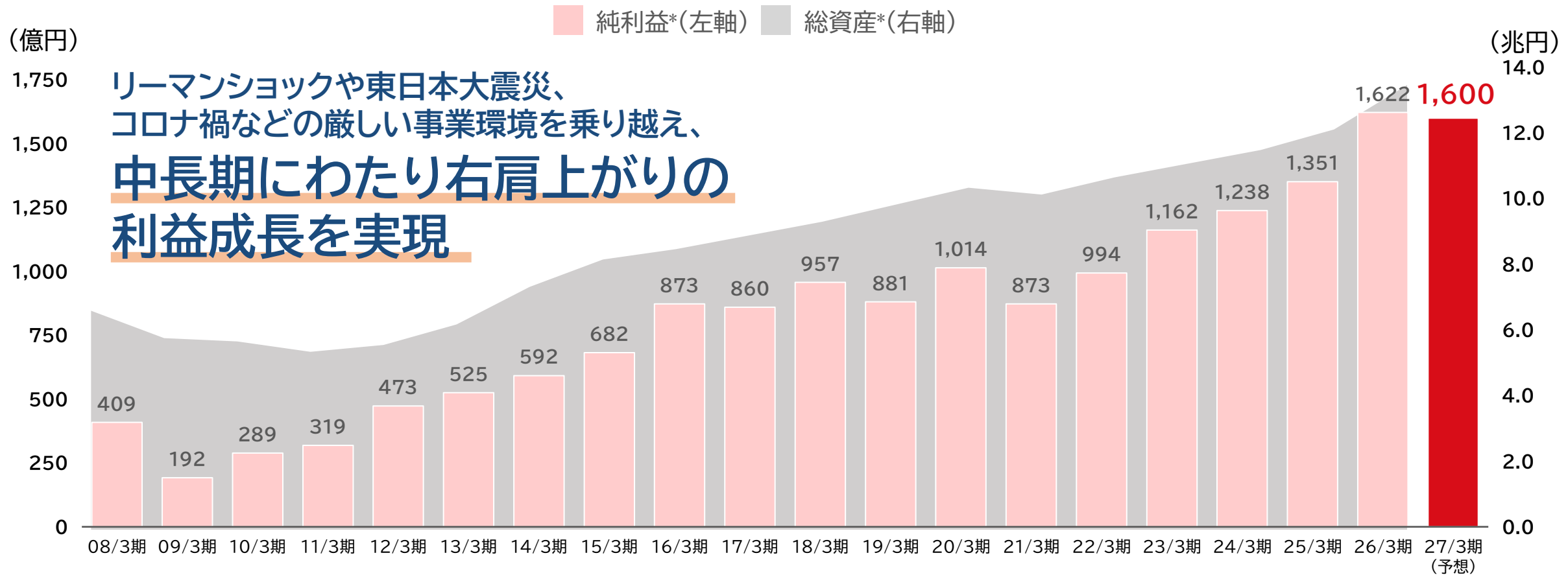
27期連続増配<sup>\*2</sup>



<sup>\*1</sup> 2026年5月31日現在における国内企業の連続増配ランキング

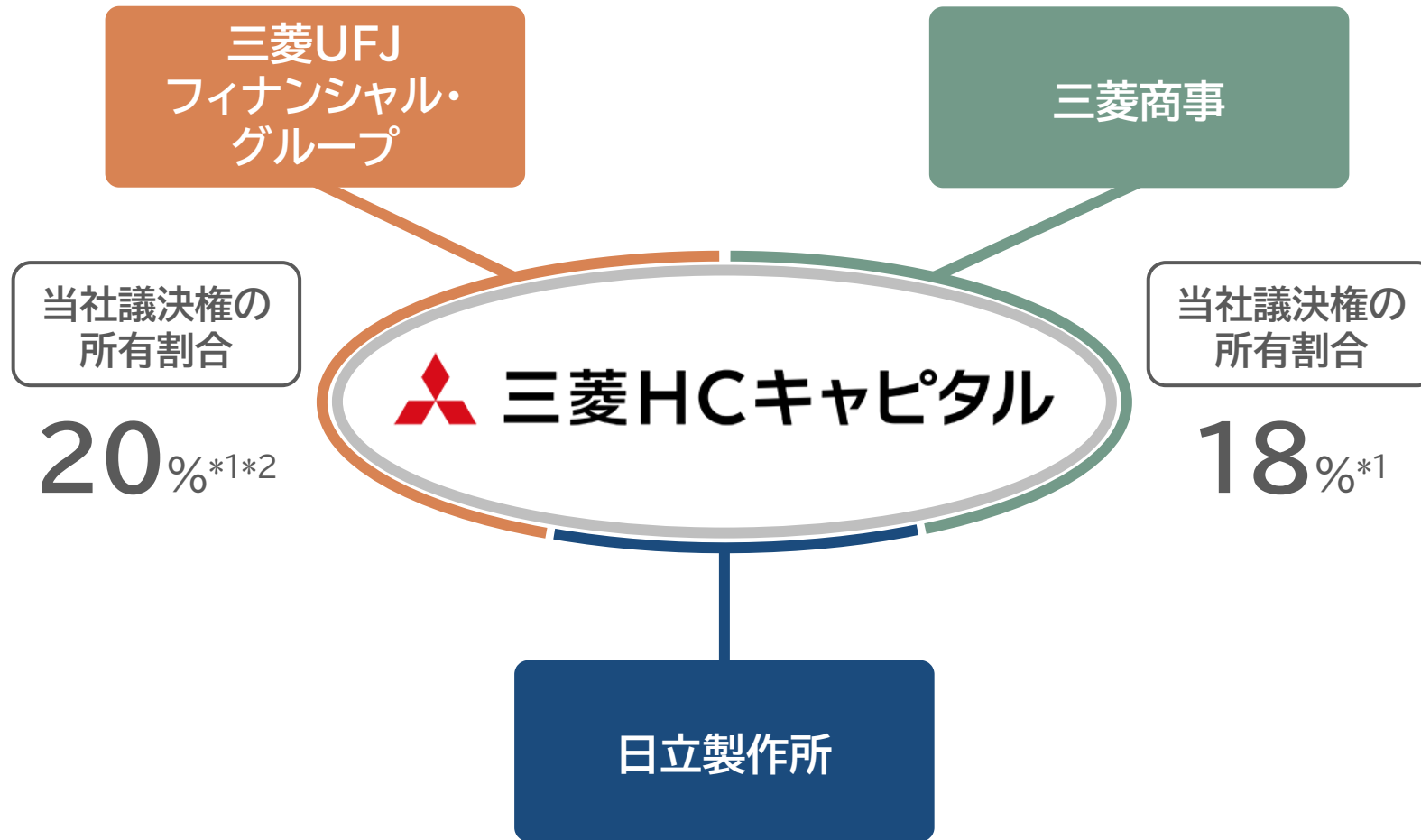
<sup>\*2</sup> 00/3期～07/3期はダイヤモンドリース、08/3期～21/3期はMULの実績

# 純利益および総資産の推移



\* 08/3期~21/3期はMULとHCの単純合算値

# 強み① 強固なパートナー関係と顧客基盤



## Point

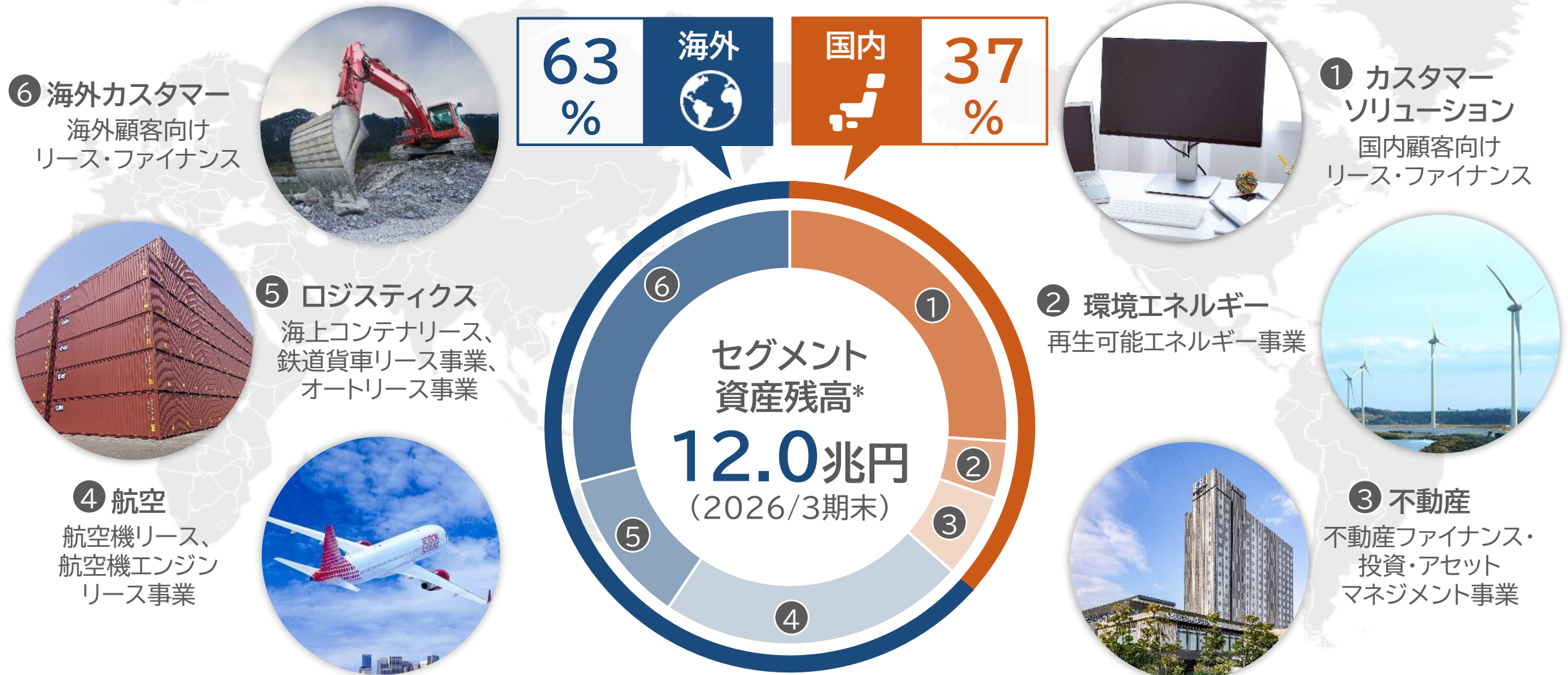
- ✓ 銀行・商社系、メーカー系という異なるバックグラウンドを生かした、強固な顧客基盤・事業基盤を有する点が強み
- ✓ 3社を含む幅広い業種の国内外の有力パートナー企業との協業により、専門性の高い事業をグローバルに展開

\*1 2026年3月31日現在

\*2 間接所有株式を含む

# 強み②-1 収益性・成長性・安定性を兼ね備えたポートフォリオ(地域)

## 国内外で分散の効いたポートフォリオ

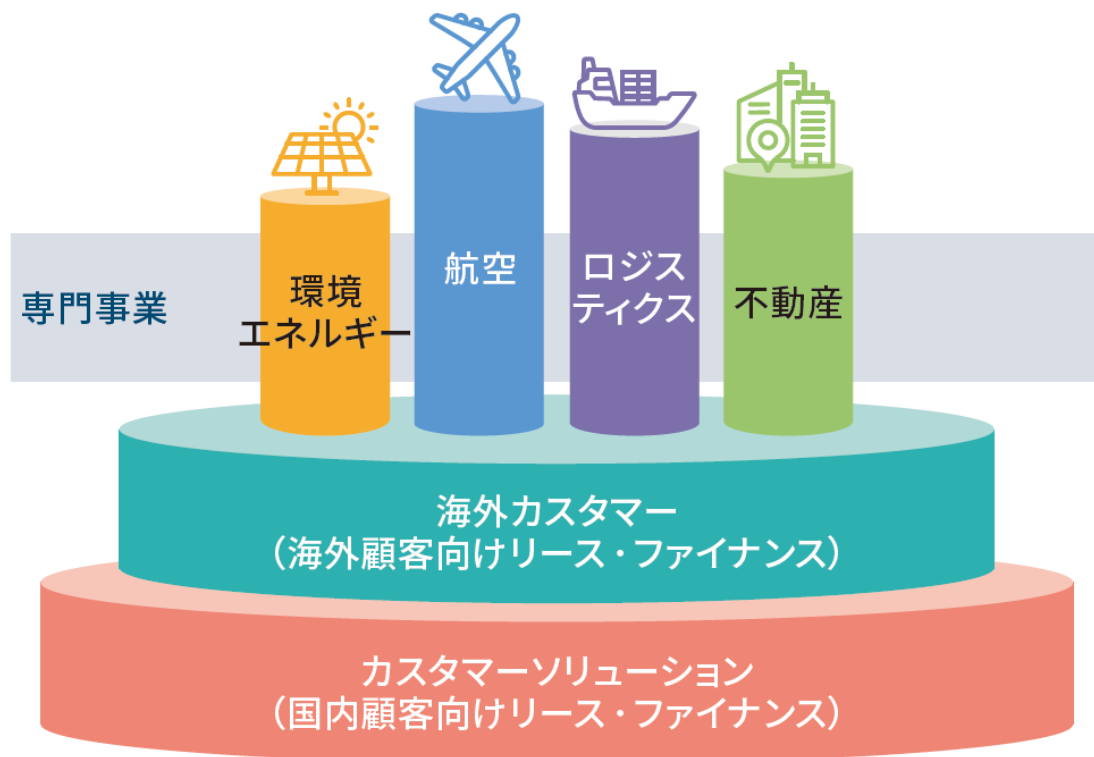


\*ロジスティクスのセグメント資産残高は、2026年4月1日付の組織改編前における「ロジスティクス」および「モビリティ」のセグメント資産残高の合算値

(注) 一部のセグメントでは、国内、海外の双方で事業を行っているものの、本資料では、その便宜上、構成比の高い地域に分類している

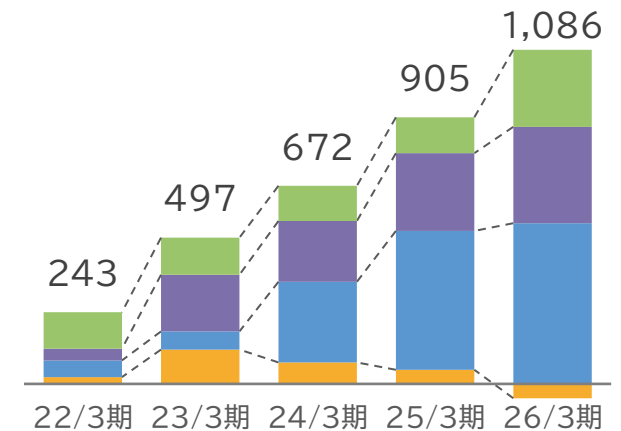
## 強み②-2 収益性・成長性・安定性を兼ね備えたポートフォリオ(事業)

安定収益基盤の顧客ソリューションと海外顧客を土台に、  
リスク・リターンが相対的に高い4つの専門事業で構成されたポートフォリオを構築



- 航空機や海上コンテナなどのリース事業、発電事業、不動産事業と幅広い事業をグローバルに展開
- リース収入などの安定したインカムゲインと、資産売却によるキャピタルゲインの両輪で稼ぐビジネス
- 4つの専門事業がボラティリティを補完し合いつつ利益成長を牽引

セグメント利益の推移\*(億円)



- リース・ファイナンスを中心としたビジネス
- リース収入などの安定したインカムゲインが中心で、4つの専門事業と比べてボラティリティが相対的に低く、安定した収益を稼ぐ基盤事業
- さまざまなお客さまと強固な関係構築を図ることができるビジネス創出のベース

\* ロジスティクスのセグメント利益は、2026年4月1日付の組織改編前における「ロジスティクス」および「モビリティ」のセグメント利益の合算値



# 強み③ 高い外部信用格付、強固な資金調達基盤

業界トップクラスの外部信用格付を獲得、競争力の源泉となる強固な資金調達基盤を保持  
ESG(環境・社会・ガバナンス)面の優れた企業として、複数のSRI\*1指標銘柄に選定

| 外部信用格付(長期)*2 |                     |    |
|--------------|---------------------|----|
| 海外           | S&P                 | A- |
|              | ムーディーズ              | A3 |
|              | フィッチ                | A- |
| 国内           | 日本格付研究所<br>(JCR)    | AA |
|              | 格付投資情報センター<br>(R&I) | AA |

## SRI (社会的責任投資)における指標銘柄

### 当社が組み込まれている主なESG指数



2026 CONSTITUENT MSCI日本株  
ESGセレクト・リーダーズ指数

2026 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)



GPIF採用の全ESG指数に選定

\*1 SRI : Socially Responsible Investmentの略

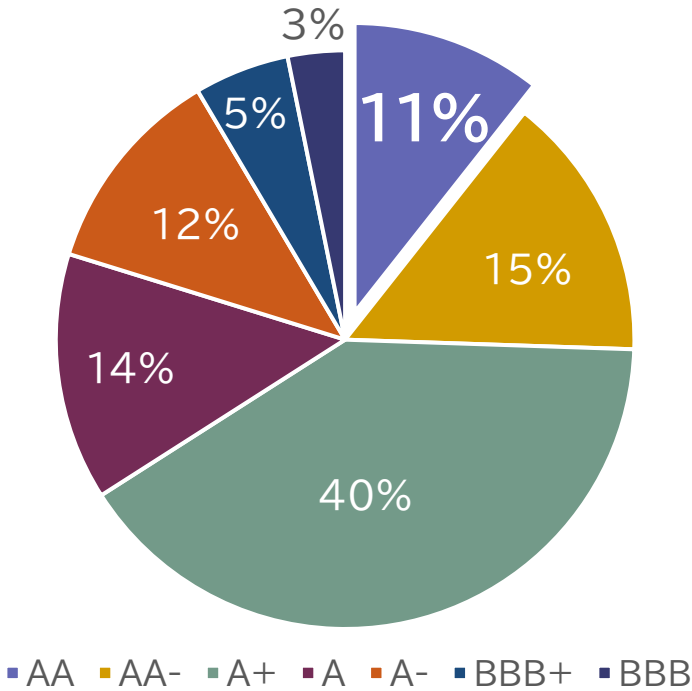
\*2 2026年6月30日現在

(注) 当社のMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたは指数の名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による当社への後援、保証、販促には該当しません。  
MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCIならびにMSCI指数の名称およびロゴはMSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

2022年から個人向け社債を発行。AA格という高格付けによる信用力を背景に、定期的な発行による豊富な投資機会、国債対比で魅力的なクーポン水準を提供

個人向け社債発行会社の格付け分布<sup>注1</sup>

■ 信用力で安心感のあるAA格の発行会社(当社を含む)は全体の11%と希少価値が高い

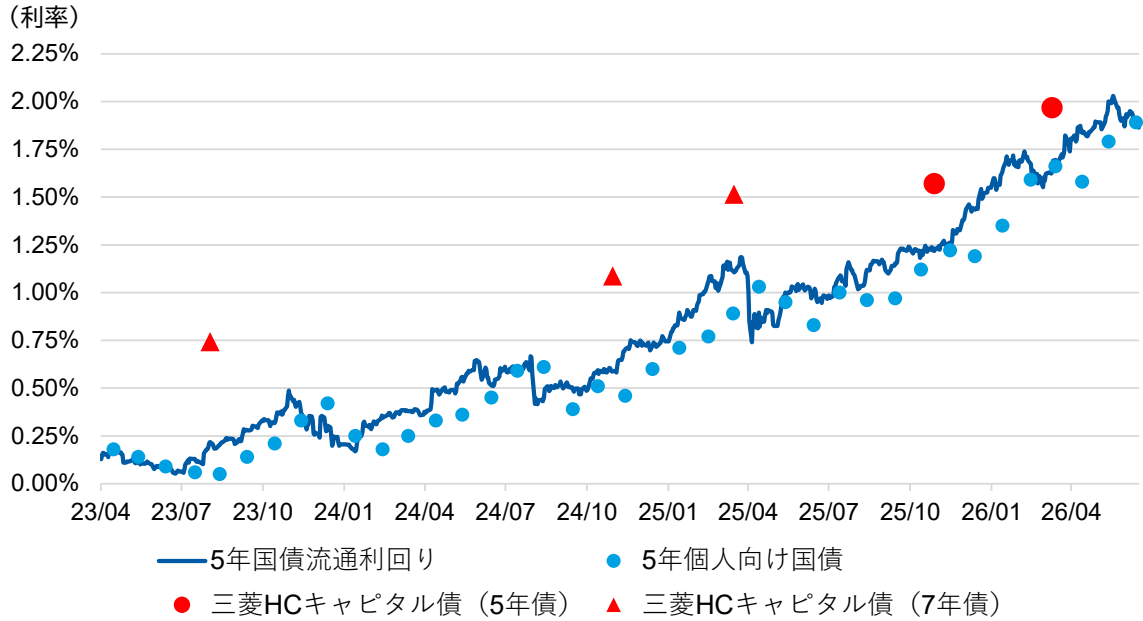


※ 出典: キャピタルアイ・ニュースより作成

(注) 対象は2023年度～2025年度に発行した発行会社数。劣後債/ハイブリッド債の発行会社も含む。  
またR&IおよびJCRの債券格付けに差がある場合は低い方の格付けを参照。

2023年度以降の発行実績と国債利回りとの比較

| 発行日         | R&I | JCR | 年限 | 発行金額  | スプレッド   | クーポン   |
|-------------|-----|-----|----|-------|---------|--------|
| 2023年7月21日  | AA- | AA  | 7年 | 200億円 | 国債+47bp | 0.743% |
| 2024年10月18日 | AA  | AA  | 7年 | 200億円 | 国債+41bp | 1.087% |
| 2025年3月4日   | AA  | AA  | 7年 | 150億円 | 国債+39bp | 1.515% |
| 2025年10月17日 | AA  | AA  | 5年 | 200億円 | 国債+38bp | 1.571% |
| 2026年2月27日  | AA  | AA  | 5年 | 200億円 | 国債+36bp | 1.968% |



※ 出典: Bloomberg、キャピタルアイ・ニュースより作成

01 | 三菱HCキャピタルの概要

---

P3

02 | 中期経営計画(2028中計)

P16

03 | 事業(セグメント)紹介

---

P21

04 | 2026年3月期 決算ハイライト

---

P30

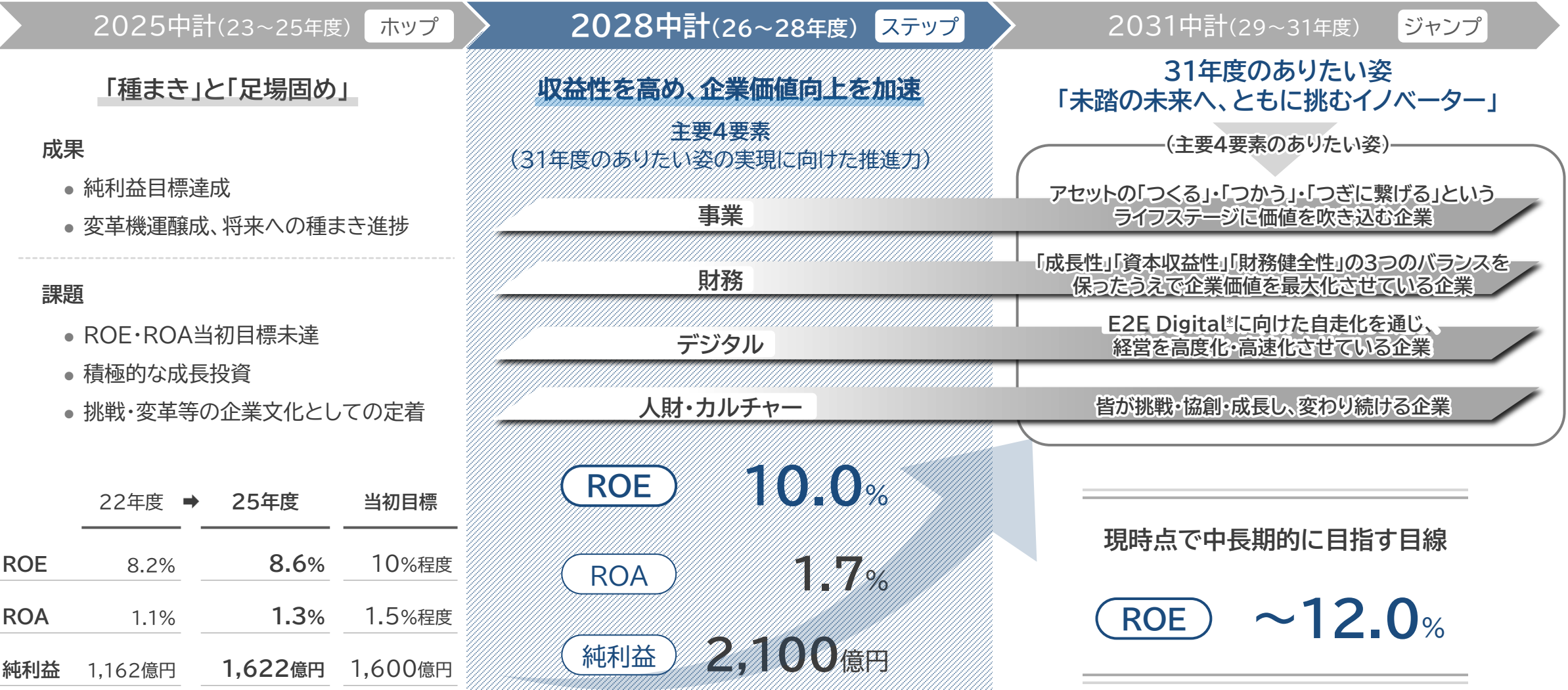
05 | ご参考資料

---

P34

# 31年度のありたい姿の具体化と2028中計の位置づけ

31年度のありたい姿を主要4要素の切り口から具体化し、その実現に向けて2028中計における各要素の戦略を推進。



\* E2E(End-to-End) Digital:全社員・全組織が、端から端までデジタル前提で稼働している状態

株主資本コストを上回る水準へのROE引上げ、マテリアリティ解決に繋がる非財務関連の取組みを通じて企業価値向上を加速。

(為替レート: \$1=140円、£1=185円)

|                           |                    | 25年度*1                  | 28年度           | 経済価値創出<br>▼<br>企業価値向上<br>▲<br>社会価値・環境価値・<br>将来の経済価値創出 |
|---------------------------|--------------------|-------------------------|----------------|-------------------------------------------------------|
|                           |                    |                         |                |                                                       |
| 財務目標                      | ROE <b>最重要指標</b>   | 8.6%                    | 10.0%          |                                                       |
|                           | ROA                | 1.3%                    | 1.7%           |                                                       |
|                           | 純利益                | 1,622億円                 | 2,100億円        |                                                       |
|                           | 外部格付               | A格                      | A格維持           |                                                       |
|                           | 配当性向               | 40.7%                   | 45%以上          |                                                       |
| 非財務目標<br>(マテリアリティ<br>と連動) | 脱炭素社会推進            | 19年度比GHG排出量(Scope1,2)*2 | △61%           |                                                       |
|                           |                    | 新型航空機比率*3               | 78%            |                                                       |
|                           |                    | グリーンビルディング比率*3          | 62%            |                                                       |
|                           | サーキュラーエコノミー実現      | リース満了物件の有効利用率*4         | 96.1%          |                                                       |
|                           | 社員の健康で豊かな<br>生活の実現 | MHCエンゲージメント             | 73%            |                                                       |
|                           |                    | 人財ポートフォリオ充足率            | -              |                                                       |
|                           |                    | デジタル関連ビジネス新規価値創出        | -              |                                                       |
|                           | 最新技術活用             | 生産性向上                   | -              |                                                       |
|                           |                    |                         | 30億円<br>+30%程度 |                                                       |

\*1 財務目標は25年度実績、非財務目標は25年度実績もしくは見込(19年度比GHG排出量(Scope1,2)およびリース満了物件の有効利用率は24年度実績)

\*2 2050年度のネットゼロ達成に向けたマイルストーンとして、24年度実績を起点に線形で28年度目標を設定

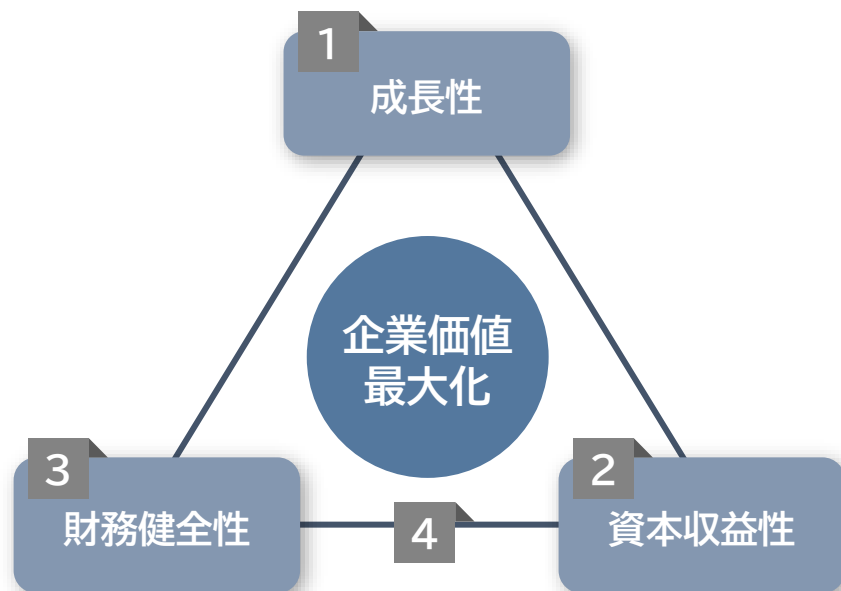
\*3 「カーボンニュートラル社会の実現に向けた移行計画」で設定した航空および不動産事業における、脱炭素社会推進に資するアセットの割合。継続的に資産回転する事業につき数値の上下動を伴いつつ中長期的向上を図る

\*4 リース事業協会定義: 満了したリース契約(MHC単体)の内、再リースへの移行・物件売却・再資源化率が高い処分業者を通じた廃棄、のいずれかを実施した契約の割合(当初取得価額ベース)

「成長性」「資本収益性」「財務健全性」の3つの視点のバランスを確保。  
キャピタルアロケーション(資金配分)を最適化することで、企業価値を最大化。

## 基本方針(不変)

### 3つの視点のバランス



## 5 キャピタルアロケーションの最適化

- 1
    - 投資パイプライン拡充のうえ、成長投資強化
  - 2
    - 事業ポートフォリオ変革や生産性向上による収益性向上
    - 資本コストを持続的に上回るリターン達成のための株主資本の上限を意識
  - 3
    - 財務健全性を堅持するための株主資本の下限を意識
  - 4
    - 財務レバレッジ適正化
    - 利益成長を伴う安定した株主還元の実現
- 
- 5
    - 資本規律を意識し、投資と株主還元を通じた企業価値最大化

## 目標

自己資本比率  
(上下限目安値)  
16～18%

外部格付  
A格維持

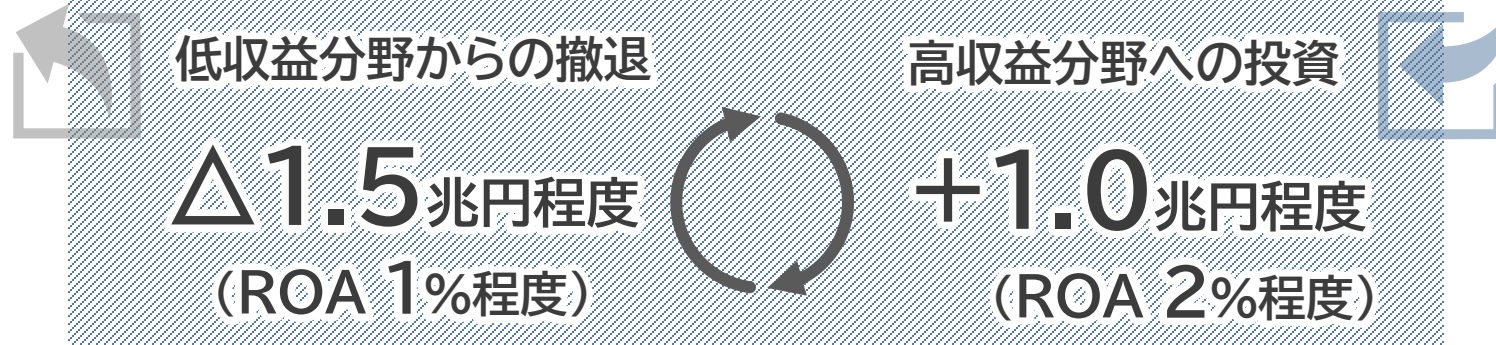
配当性向  
45%以上



従来以上にメリハリの利いた事業ポートフォリオ入替を加速し、資産規模拡大を抑えつつ成長投資強化を通じて収益性を向上。

## 2028中計期間中の全社事業ポートフォリオ入替(①+②)

### ① インオーガニック成長



+

### ② オーガニック成長



01 | 三菱HCキャピタルの概要 P3

---

02 | 中期経営計画(2028中計) P16

---

03 | 事業(セグメント)紹介 P21

04 | 2026年3月期 決算ハイライト P30

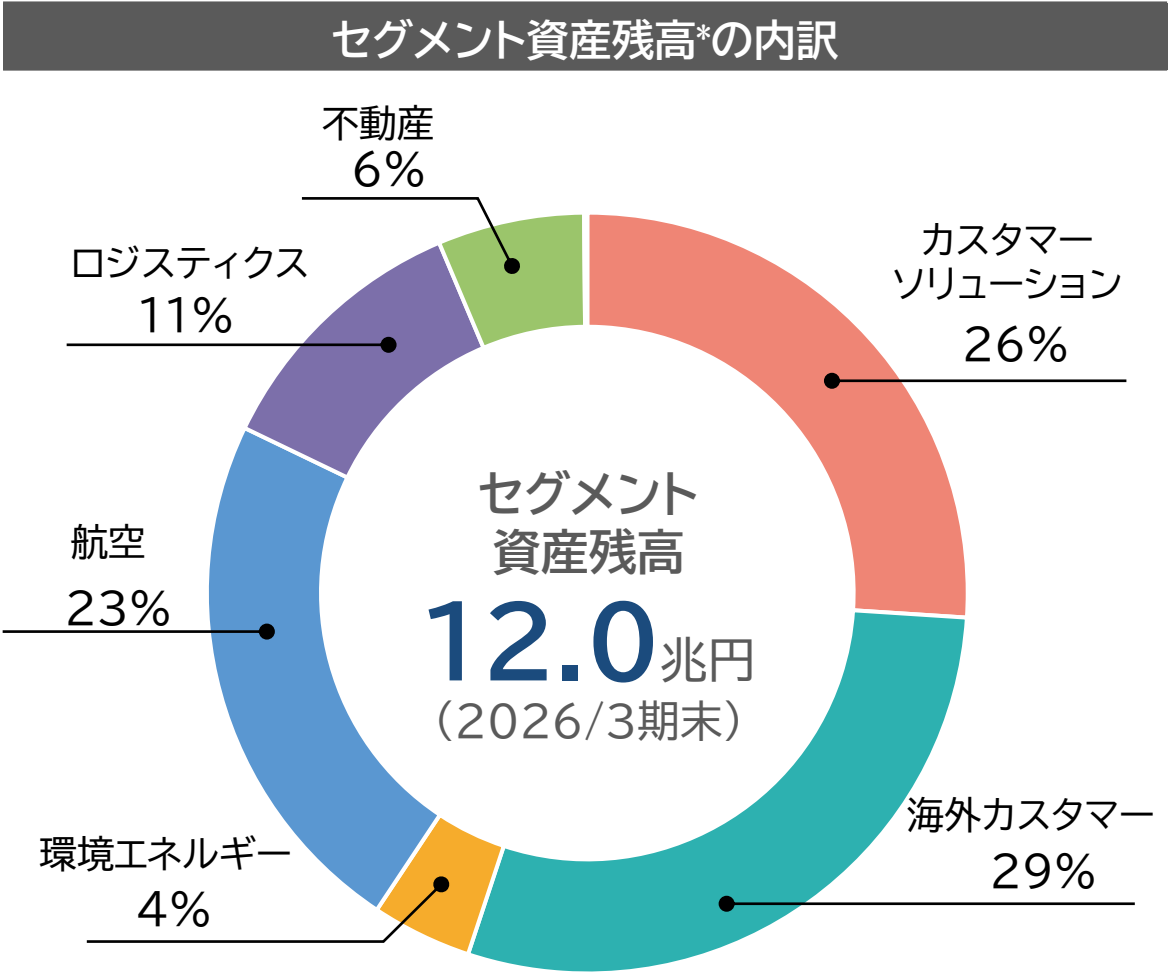
---

05 | ご参考資料 P34

---

- 当社の事業セグメントは、顧客・パートナーを起点とした“カスタマーソリューション”、海外の顧客・パートナーを起点とした“海外カスタマー”、専門事業領域を担う“環境エネルギー”、“航空”、“ロジスティクス”、“不動産”の6つで構成

| セグメント        | 主な事業内容                                  |
|--------------|-----------------------------------------|
| カスタマーソリューション | 国内顧客向けリース・ファイナンス事業                      |
| 海外カスタマー      | 海外(欧州・米州・中国・ASEAN)顧客向けリース・ファイナンス事業      |
| 環境エネルギー      | 再生可能エネルギー事業                             |
| 航空           | 航空機リース事業、航空機エンジンリース事業                   |
| ロジスティクス      | 海上コンテナリース事業、鉄道貨車リース事業、オートリース事業および付帯サービス |
| 不動産          | 不動産ファイナンス事業、不動産投資事業、不動産アセットマネジメント事業     |



\*ロジスティクスのセグメント資産残高は、2026年4月1日付の組織改編前における「ロジスティクス」および「モビリティ」のセグメント資産残高の合算値

(注) 海外カスタマーセグメントの資産残高には、航空・ロジスティクスなどの他のセグメントに属する海外の利益や資産は含まない

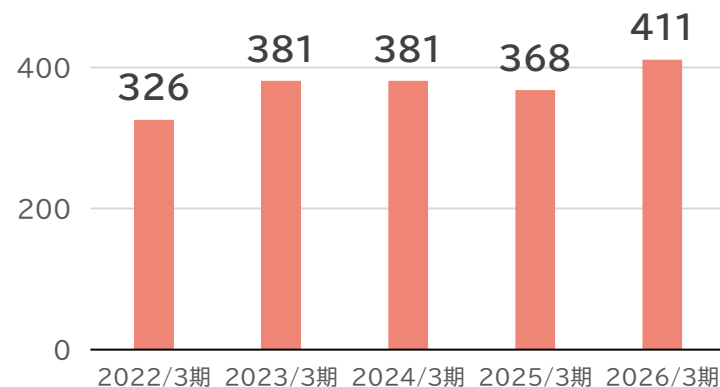
## 主な事業内容

- 法人・官公庁向けファイナンスソリューション事業、省エネソリューション事業、ベンダーと提携した販売金融事業、不動産リース事業、金融サービス事業

## カスタマーソリューションの強み

- お客さまとの豊富な接点や深いリレーション
- 三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱商事、日立グループをはじめとしたパートナー企業との強固な関係
- お客さまとの取引を通じた、多種多様なアセットとデータ

## セグメント利益の推移



## プレゼンス/ポテンシャル

トータルサポート  
PC保有台数

**220万台**

顧客向け建物リース保有棟数  
(商業施設・物流倉庫等)

**約1,800棟**

高性能半導体  
製造設備・機器取扱高

**約240億円**



▲ 情報通信機器(イメージ)



▲ 産業機械(イメージ)



▲ 医療用機器(イメージ)



▲ 商業およびサービス業用機器  
(イメージ)

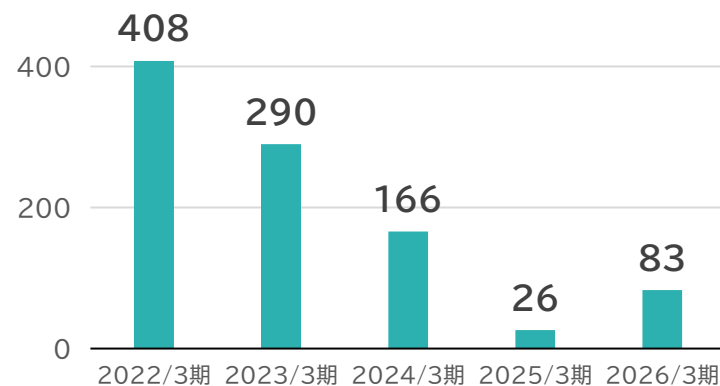
## 主な事業内容

- 欧州、米州、アジア・オセアニアの顧客層に産業機器、商用車、建設機械、IT 機器など幅広いアセットを対象にファイナンスサービスを提供

## 海外カスタマーの強み

- 欧州、米州、アジア・オセアニアの20以上の拠点を活かした、国内リース会社トップレベルの地域横断の強固な海外ネットワーク
- 多様な商品ラインアップと幅広い顧客基盤、それを支える多様性に富んだ人財

## セグメント利益の推移



## プレゼンス/ポテンシャル

欧州

英国  
取引額  
ランキング

5位

※ 出典: アセットファイナンスUK Top 50

英国  
車両リース部門  
管理車両台数  
ランキング

6位

※ 出典: <https://www.fleetnews.co.uk/fleet-leasing/fn50-data/>

米国

米国  
総資産額ランキング

26位

※ 出典: 2025年「The 100 Largest Equipment Finance / Leasing Company in the U.S. (By Assets)」



▲ 個人向け金融(イメージ)



▲ EV用充電施設(英国に設置)



▲ 商用トラック(イメージ)



▲ 建設機械(イメージ)

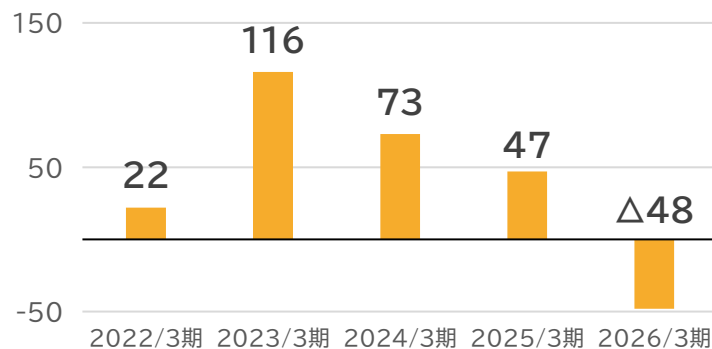
## 主な事業内容

- 再生可能エネルギー事業(太陽光、陸上風力、蓄電池)および水素・次世代太陽電池等を軸とした先進分野

## 環境エネルギーの強み

- 国内事業:太陽光や自社開発力を活かした陸上風力、蓄電池の各事業。電力の需給管理・調整および需要家に電力を販売する事業による収益機会拡大
- 海外事業:デンマークのEEへの出資参画を通じ、成長市場における事業基盤を構築
- 水素や次世代太陽電池など先進分野に着目し、将来の事業機会を見据えた実証参画を通じて成長機会を確保

## セグメント利益の推移



\* 複数の事業者が共同で所有・運用する再生可能エネルギー事業のうち、当社が保有する割合における算出可能な発電容量のこと

## プレゼンス/ポテンシャル

長期安定適格太陽光  
発電事業者の認定\*

国内**3**社のうち**1**社

\* 三菱HCキャピタルエナジー、2026年3月時点

太陽光・陸上風力を中心とした  
国内外の保有発電所出力数

**1.7** GW

EEの自社開発による  
累計実績

**4.1** GW



▲ エンフィニティ・ジャパンと共同で運営する九州の蓄電池事業



▲ EEが開発した発電設備(デンマーク・ホルメン)



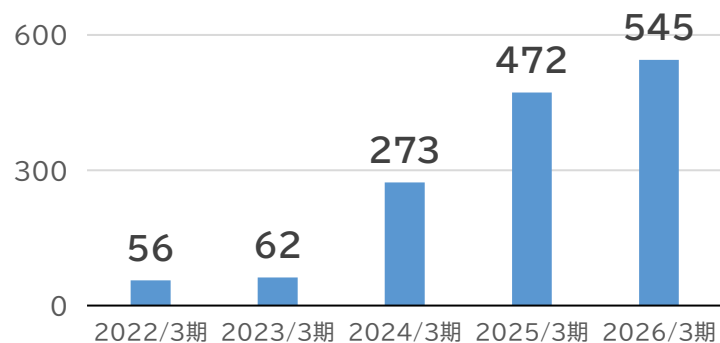
## 主な事業内容

- 航空機リース、航空機エンジンリース、パーツアウト(エンジン解体・部品販売)、日本型オペレーティングリース\*1、航空機/エンジンの売買媒介

## 航空の強み

- 航空機・エンジンの取得から運営、退役までの資産管理を、グループ一体・ワンストップで担う(ライフサイクル型)
- 新型ナローボディ機\*2・新型エンジンを中心とした質の高いポートフォリオ
- エンジンリースの業界リーダーシップと、パーツアウトを含む事業運営・収益化力

## セグメント利益の推移



\*1 航空会社・海運会社向けの航空機・エンジン・コンテナ等のオペレーティングリース。組合契約に基づく出資や資産保有形態で日本国内の投資家に販売

\*2 飛行機の分類のうち、客室が単通路(1本の通路)で構成される旅客機。燃費の面で優れており、中・短距離路線に用いられ、比較的流動性が高い

## プレゼンス/ポテンシャル

JSA保有機数

**247機**

JSA新型航空機比率

**78.9%**

elfc保有エンジン基数

**428基**

elfc新型基比率

**79.7%**



▲ 新型ナローボディ機



▲ 新型航空機エンジン



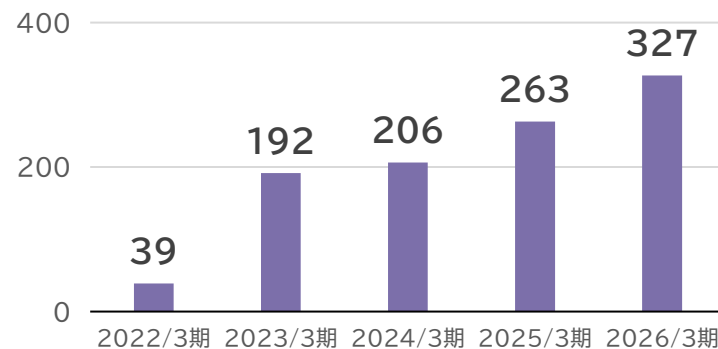
## 主な事業内容

- 海上コンテナリース事業、鉄道貨車リース事業、国内・ASEANでのモビリティ事業(フリートマネジメントサービスおよび周辺事業)

## ロジスティクスの強み

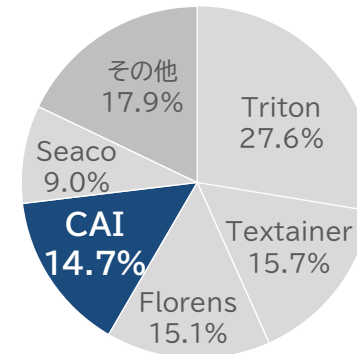
- 海上コンテナリース事業(子会社CAI):グローバルな営業網を基盤とした市場インテリジェンス機能
- 鉄道貨車リース事業(子会社PNW):リスク耐久性が強くバランスの取れたポートフォリオ
- モビリティ事業:当社グループや株主、外部パートナーとの営業・事業連携

## セグメント利益\*の推移



\* 2026年4月1日付の組織改編前における「ロジスティクス」および「モビリティ」のセグメント利益の合算値

## プレゼンス/ポテンシャル



海上コンテナリース市場\*  
世界シェア  
(2025年12月末現在)

4位

\* 容量ベース  
※ 出典: Container Census & Leasing Annual Review and Forecast of the Container Equipment Fleet ANNUAL REPORT 2026/27



▲ ドライコンテナ



▲ リーファー(冷蔵)コンテナ



▲ 鉄道貨車:カバードホッパー  
(穀物、砂、セメント等を輸送)



▲ EVに関する統合型サービスを  
活用して導入したEVの営業車

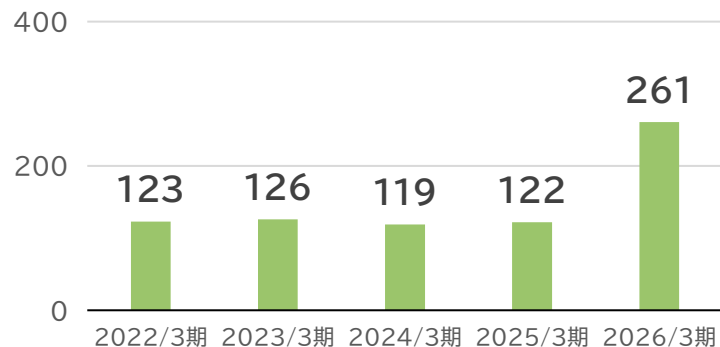
## 主な事業内容

- 不動産（オフィスや物流、ホテル、レジデンス、商業施設等）を対象とする、ファイナンス、投資、アセットマネジメントの3事業を軸に展開

## 不動産の強み

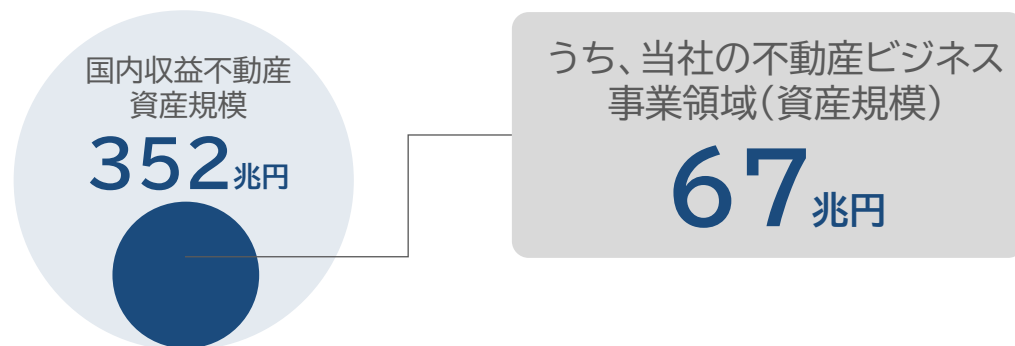
- 当社グループが事業を通じて長期的に関係性を築いた強固な顧客・パートナー基盤
- ファイナンス、投資、アセットマネジメント機能を活かした環境に左右されない柔軟な案件対応力
- 豊富な投融資経験と専門人財によるアセットの目利き力・リスク対応力

## セグメント利益の推移



## プレゼンス/ポテンシャル

不動産事業本部の対象とする主たるマーケット規模



※ 出典：ニッセイ基礎研究所不動産レポート「我が国の不動産投資市場規模（2025年）」



▲ マルチテナント型物流施設  
「CPD名古屋みなと」



▲ リブランドを行い2024年12月に開業した  
「ダブルツリーbyヒルトン東京有明」



▲ マルチ型冷凍冷蔵倉庫  
「LOGI FLAG DRY & COLD 福岡古賀Ⅰ」



▲ データセンター（イメージ）  
複数の施設に投融資を実施



## 多彩なアセットで社会を支える力

わたしたちは、お客さま・パートナーとともに、社会のあらゆる場面でモノやサービスを通じて社会的課題を解決することで、持続可能で豊かな未来の実現に貢献していきます。



01 | 三菱HCキャピタルの概要 P3

---

02 | 中期経営計画(2028中計) P16

---

03 | 事業(セグメント)紹介 P21

---

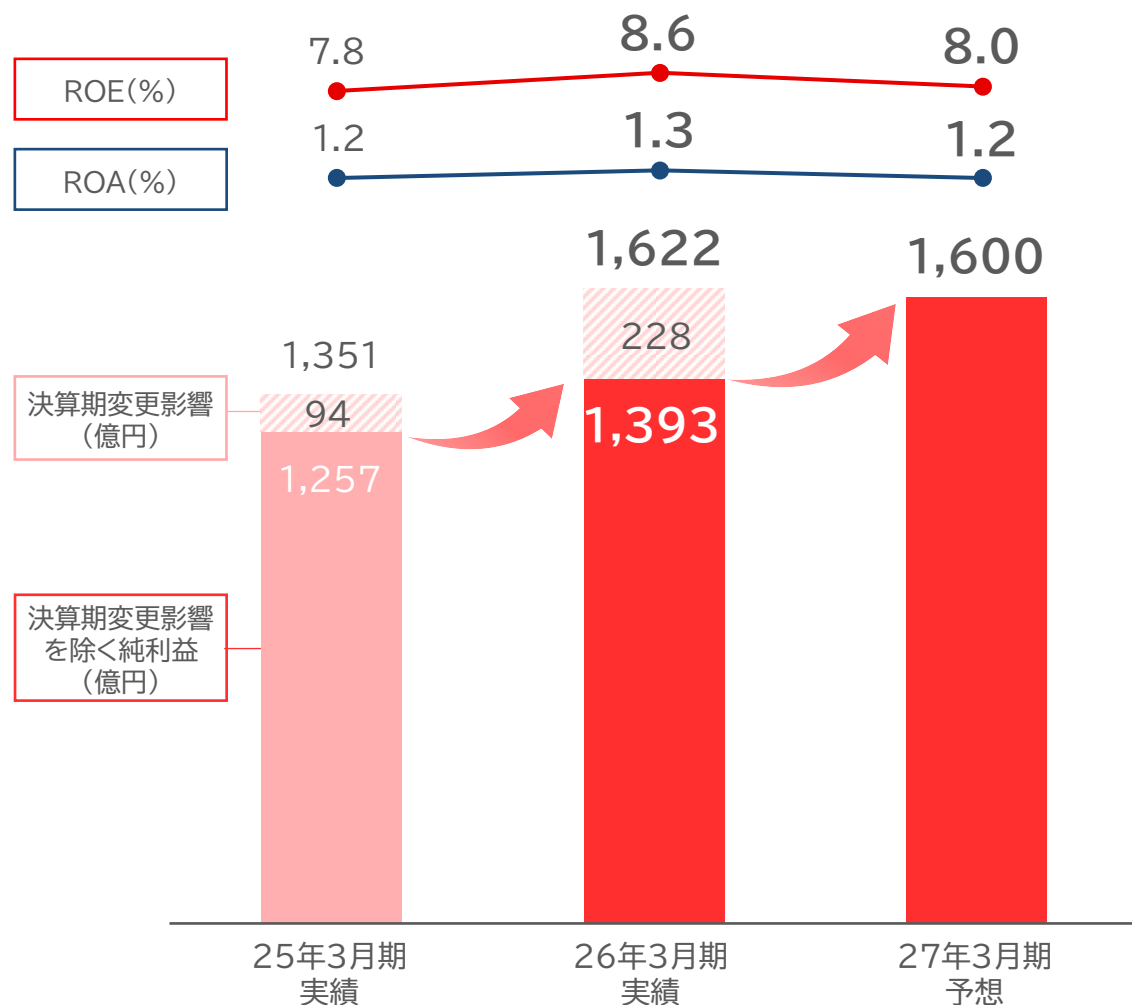
04 | 2026年3月期 決算ハイライト P30

05 | ご参考資料 P34

---

# 2026年3月期 決算ハイライト

## 純利益、ROA、ROE



## 26年3月期実績

- ✓ 純利益は1,622億円となり目標達成。4期連続で過去最高益更新。決算期変更影響(詳細はP.35に記載)を除いても前期比増益。
- ✓ ROA1.3%、ROE8.6%とそれぞれ前期比上昇。
- ✓ 年間配当金は前期比6円増配、期初予想比1円増配の46円。

## 27年3月期予想

- ✓ 純利益1,600億円、ROA1.2%、ROE8.0%を予想。純利益は前期比ほぼ横ばいながら、前期の決算期変更影響(228億円)を除くと、実質的には増益を見込む。
- ✓ 年間配当金は前期比5円増配の51円。28期連続増配を予想。
- ✓ なお、米国・イスラエルとイランの武力衝突に伴う中東情勢悪化による業績影響は織り込んでいない(詳細はP.36に記載)。

Point  
**01**

リスクやリターンの異なる6つの事業を運営することで、  
**事業環境の変化に関わらず安定的に利益を生み出すことが可能**

Point  
**02**

株価は1999年以降の27年間で**約11倍に成長**  
**27期連続増配**を実施、**28期連続増配**の見込み

Point  
**03**

**2028中計では最重要指標ROE10%の達成をめざす**





ご清聴いただき  
ありがとうございました

01 | 三菱HCキャピタルの概要 P3

---

02 | 中期経営計画(2028中計) P16

---

03 | 事業(セグメント)紹介 P21

---

04 | 2026年3月期 決算ハイライト P30

---

05 | ご参考資料 P34

# 連結子会社の決算取込期間の調整による影響

- 2026年3月期より、航空、ロジスティクスセグメントの子会社elfc、CAIおよびPNWの決算期を12月から3月に変更。
- この変更により2026年3月期1Qの決算対象期間が2025年1月～6月までの6カ月間となった結果、期ズレ調整期間(同年1月～3月)のセグメント利益として228億円(航空セグメント:89億円、ロジスティクスセグメント:62億円、調整額:75億円)の増益効果が発生。

PL影響

- ① 25/3期1Q  
前期は航空セグメントの子会社JSAの決算期を12月から3月に変更。JSAの2024年4月～6月実績(3カ月間)に加え、期ズレ解消期間の2024年1月～3月実績(3カ月間) も取り込んだことで、航空セグメントおよび調整額(本部勘定)で下表のPL影響が発生。
- ② 26/3期1Q  
当期では、航空、ロジスティクスセグメントおよび調整額(本部勘定)で下表のPL影響が発生。

| (億円)       | ① 25/3期1Q |     |      | ② 26/3期1Q |         |     |      | (②－①) 前年同期比(増減) |         |     |      |
|------------|-----------|-----|------|-----------|---------|-----|------|-----------------|---------|-----|------|
|            | 航空        | 調整額 | 合計   | 航空        | ロジスティクス | 調整額 | 合計   | 航空              | ロジスティクス | 調整額 | 合計   |
| インカムゲイン    | +63       | +42 | +105 | +109      | +106    | +97 | +313 | +46             | +106    | +54 | +207 |
| アセット関連損益   | +56       | -   | +56  | +30       | +6      | -   | +36  | -26             | +6      | -   | -20  |
| 貸倒関連費用     | 0         | -   | 0    | -         | 0       | -   | 0    | 0               | 0       | -   | 0    |
| 経費         | +28       | -   | +28  | +25       | +30     | -   | +55  | -3              | +30     | -   | +27  |
| 特別損益       | -         | -   | -    | -         | -       | -   | -    | -               | -       | -   | -    |
| その他(税金費用等) | +30       | +8  | +38  | +24       | +19     | +21 | +65  | -5              | +19     | +12 | +26  |
| セグメント利益    | +60       | +33 | +94  | +89       | +62     | +75 | +228 | +29             | +62     | +42 | +133 |

- 中東情勢の緊迫化は、エネルギー価格高騰等を通じて金融市場および実体経済へ大きな影響が生じ得る可能性があるとの認識。
- 現時点で2028中計に当該影響は織り込んでいないものの、引き続き動向を注視する。

## リスクシナリオ

- エネルギー価格高騰やサプライチェーンの混乱等に伴う物価上昇、これらの常態化
- グローバルな物流・人流の停滞
- 金利のさらなる上昇
- 上記等の複合的な要因に伴うグローバルな景気減速・後退



## 当社への想定される影響

- 貸倒関連費用の増加
- 新規契約高の減少
- 資金調達コストの上昇

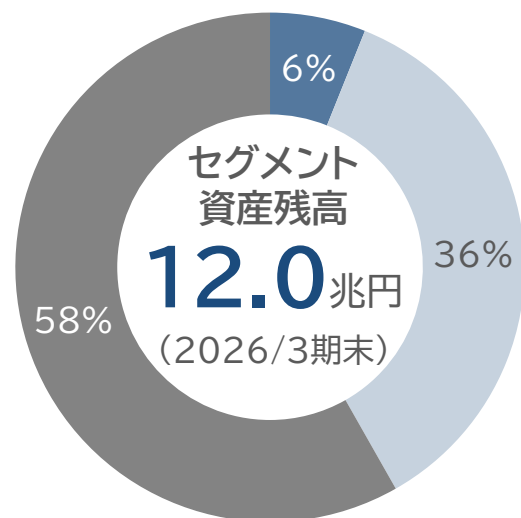


## 当社としての対応

- 中東情勢の先行きは不透明で、現時点で経済への影響範囲・期間等を見通すことは困難。
- 従って、左記の当社への想定される影響額を合理的に算出することは困難であり、2028中計に当該影響は織り込んでいない。
- 引き続き中東情勢および当社への影響を注視。
- なお、当社は、平時より、相応の市場の混乱を想定しそれに耐え得る資金調達体制を確保しており、今後もその方針を継続。

## リース会計変更の影響

- 企業会計基準委員会(ASBJ)が公表した「新リース会計基準」は、一部の例外を除き、オペレーティングリース(OL)取引の資産計上を求めており、2027年4月1日以降の事業年度より適用が開始される。
- リースはオフバランス目的だけではなく、物件管理・事務のアウトソーシングや資金調達等の一手段として広く活用されていることから、契約実行高への影響は軽微の見込み。
- また、当社連結セグメント資産残高に占める国内OLの割合は1割程度であることから、業績に与える影響は限定的。

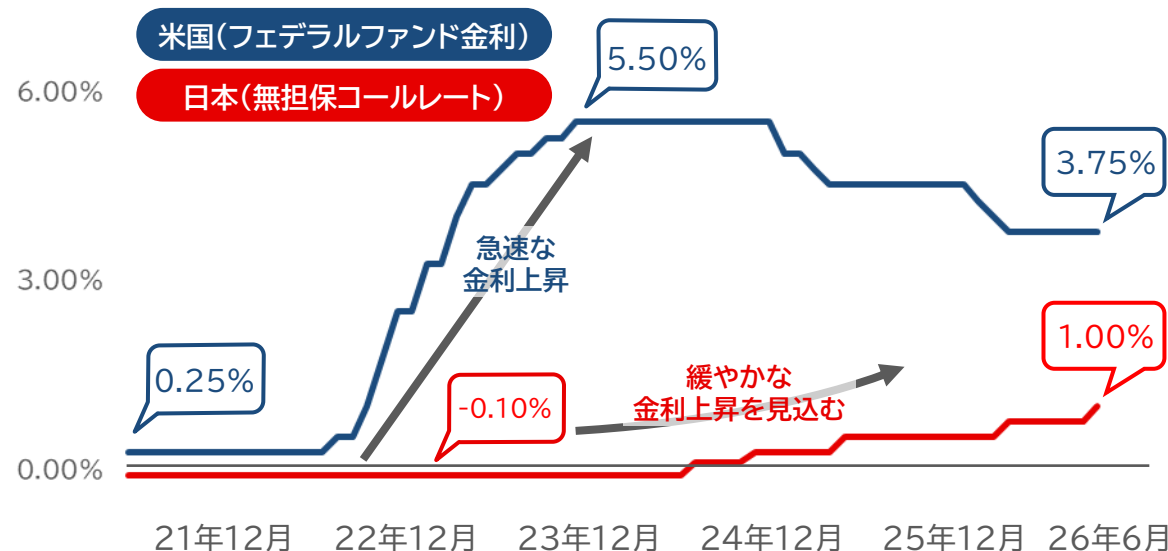


|      |        |
|------|--------|
| 国内OL | 0.7兆円  |
| 海外OL | 4.2兆円  |
| その他  | 7.0兆円  |
| 合計   | 12.0兆円 |

## 国内金利上昇の影響

- 欧米のように急速に金利が上昇した場合は、市場金利の上昇分をお客さまのリース料に反映するまでのタイムラグにより一時的に収益性が低下。
- 国内金利は時間を掛けて緩やかに上昇していく見込みのため、リース料への反映に大きなタイムラグは生じず、業績への影響は限定的。

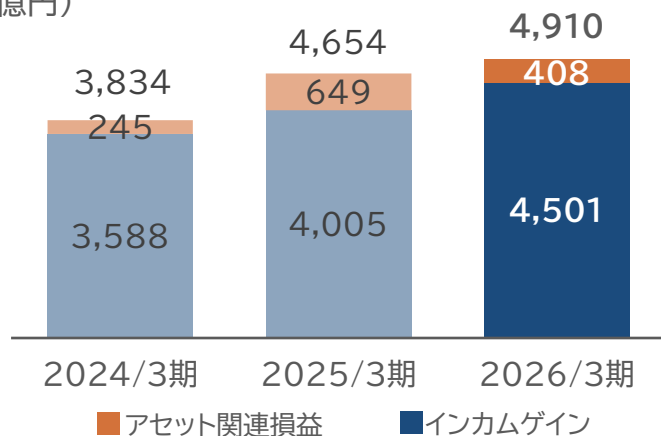
### 日本および米国における政策金利の推移





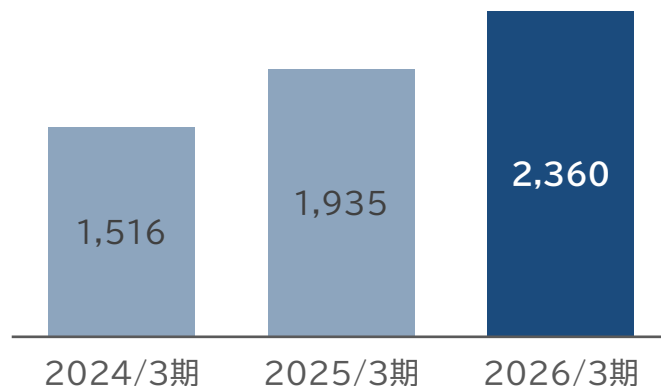
## インカムゲイン・アセット関連損益

(億円)



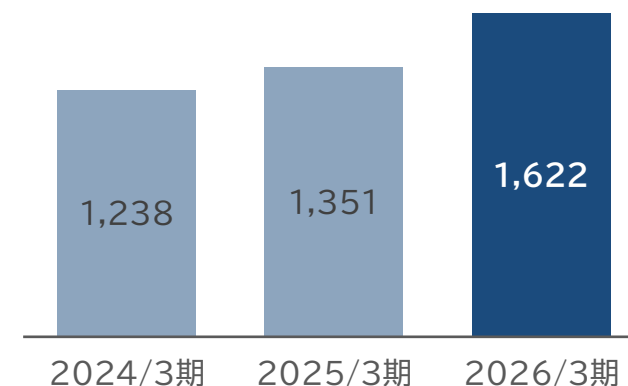
## 経常利益

(億円)

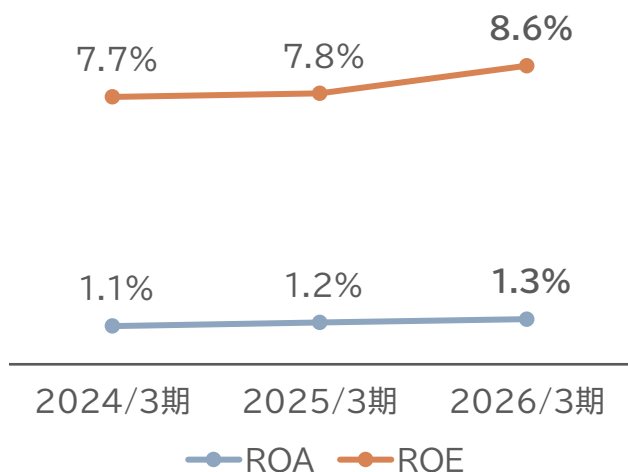


## 純利益

(億円)

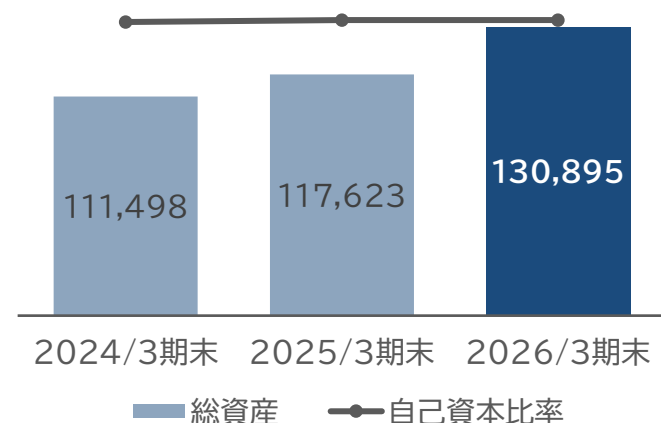


## 収益性



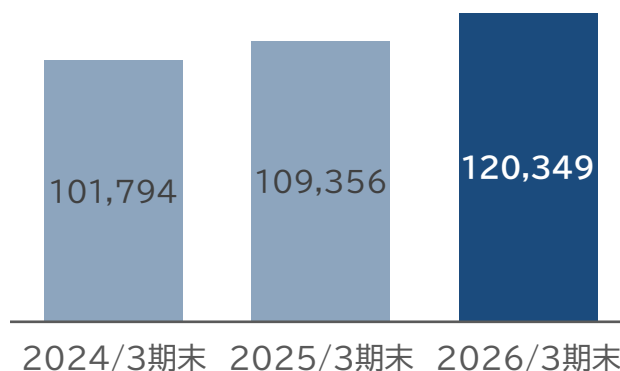
## 総資産・自己資本比率

(億円)



## セグメント資産残高

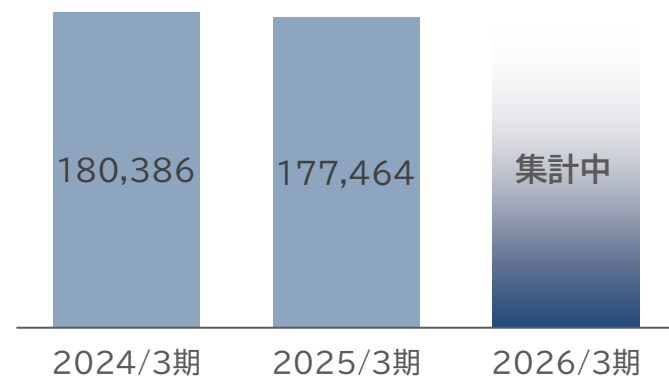
(億円)





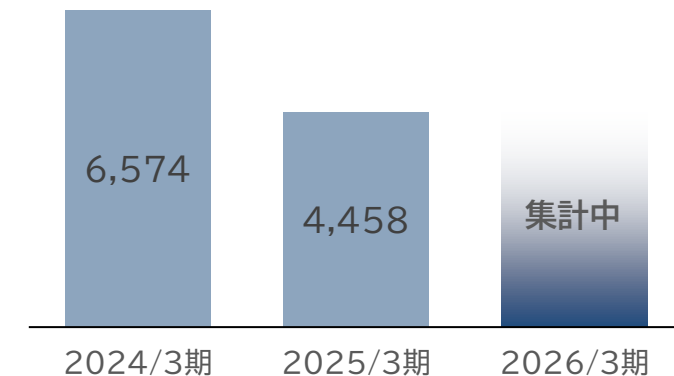
## 総エネルギー使用量(連結)

(GJ)



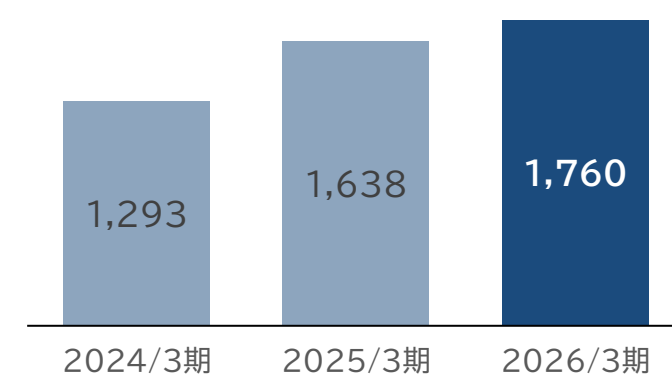
## GHG排出量(連結) Scope1、2総量(マーケットベース)

(t-CO2e)



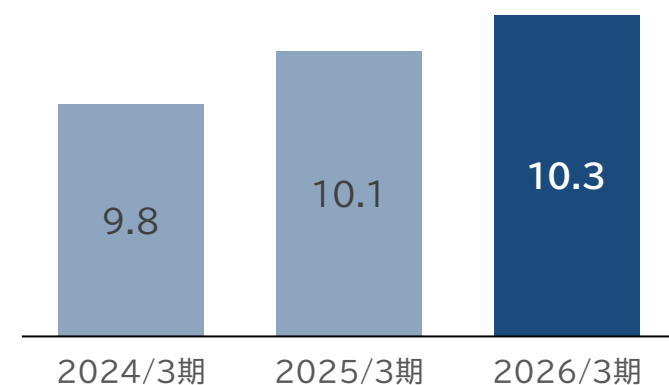
## 再生可能エネルギー発電事業における 運転開始済みの持分容量(MW)(連結)

(MW)



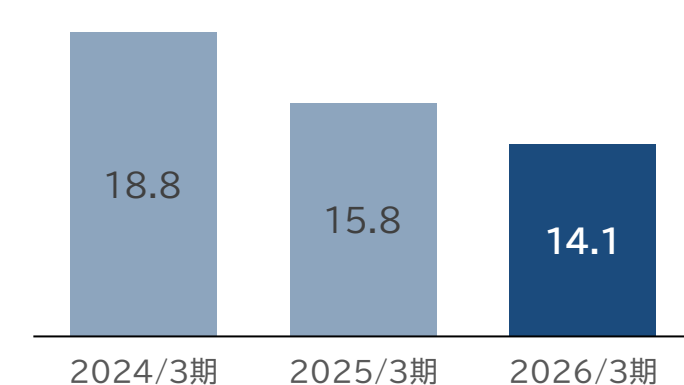
## 一人当たり平均年間給与(従業員全体) (単体)

(百万円)



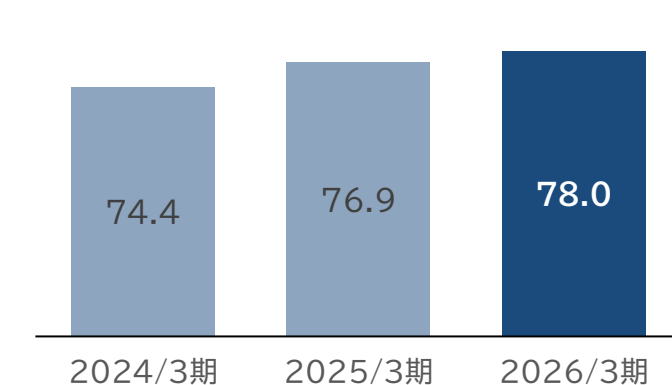
## 一人当たり月平均時間外労働時間 (単体)

(時間)



## 有給休暇取得率(単体)

(%)



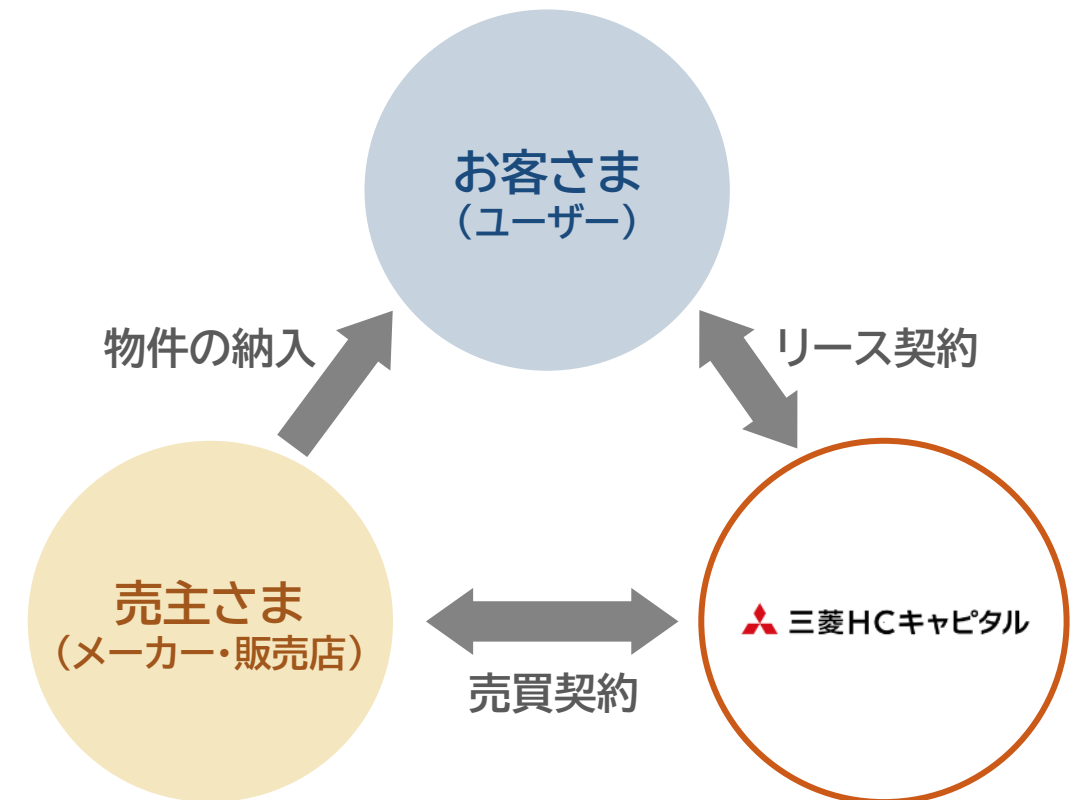
# リースとは？

- リースとは、お客さまが選んだものをリース会社がお客さまに代わって購入し、貸与するもの。  
リース会社が持っているものの中から、お客さまが選んで借りるようなレンタルとは異なる。

| リース、レンタル、割賦の比較 |                 |            |           |
|----------------|-----------------|------------|-----------|
|                | リース             | レンタル       | 割賦        |
| 物件の選択          | お客さまが指定         | レンタル物件の中から | お客さまが指定   |
| 契約期間           | 比較的に長期          | 比較的に短期     | 通常5年以内    |
| 所有権            | リース会社           | レンタル会社     | お客さま(完済時) |
| 中途解約           | できない            | できる        | できない      |
| 契約終了後          | 再リース、<br>または、返却 | 返却         | お客さまの資産   |
| 管理事務*          | リース会社           | レンタル会社     | お客さま      |
| 頭金             | 不要              | 不要         | 原則必要      |

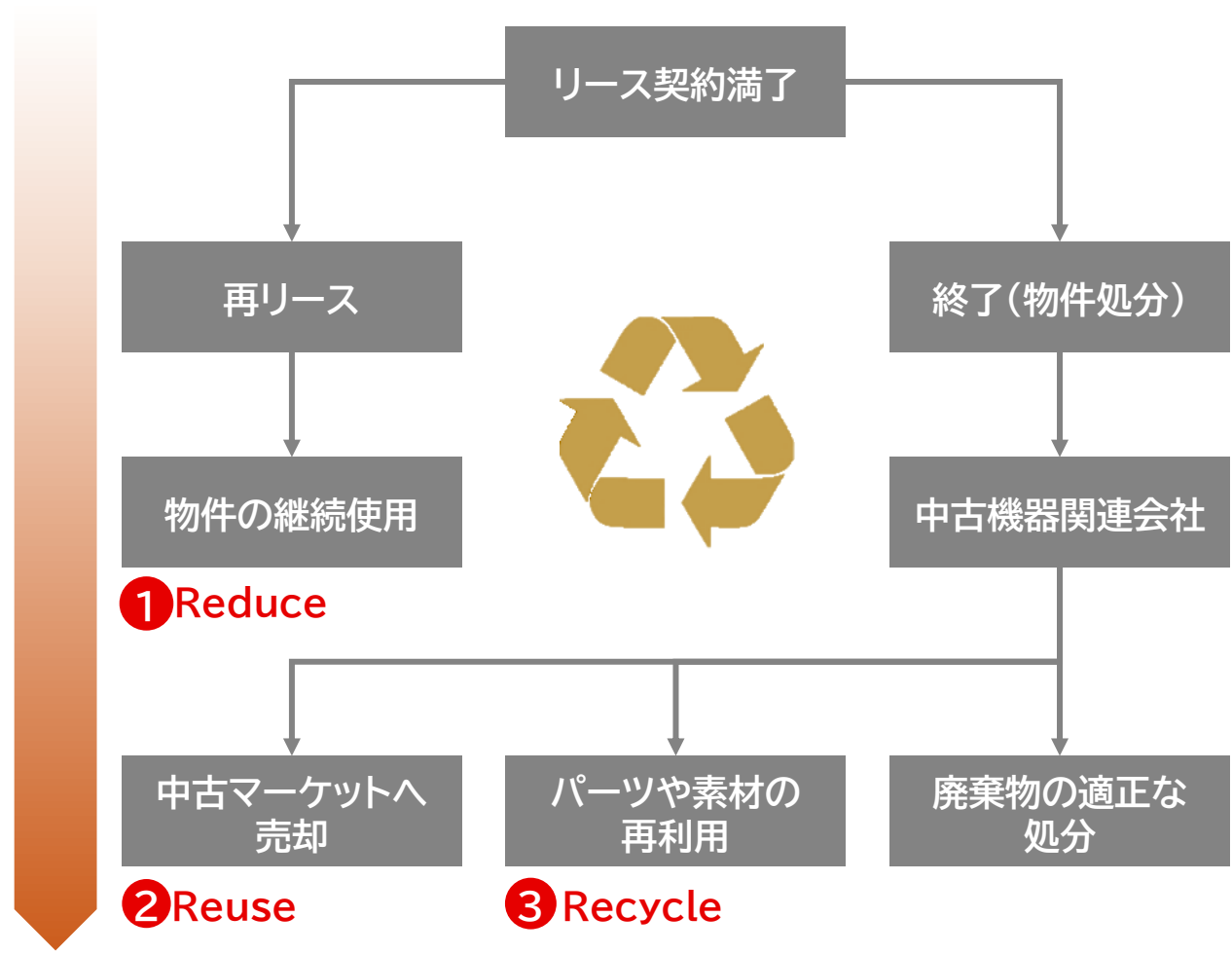
\* 購入手続き、物件の償却、固定資産税の申告や納付、保険料の支払いなどの事務手続き

## リース契約の仕組み



# リース満了物件における3Rの取り組み

## リース満了物件における3Rの取り組み



### 当社グループの中古機器関連会社

| 会社名           | 主な取扱商品                    |
|---------------|---------------------------|
| U-MACHINE     | ✓ 産業・工作機械<br>✓ 理化学機器・分析機器 |
| MHC環境ソリューションズ | ✓ PC・情報機器<br>✓ 理化学機器・分析機器 |



▲ U-MACHINEの  
三好リソースセンター(愛知県)



▲ メンテナンスの様子

## ホームページ上で掲載している主な当社に関する情報

### 2028中計



2027年3月期からの  
3年間を対象期間とする  
中期経営計画「2028中計」  
について掲載。



### 統合報告書



中長期的な価値創造の全体  
像や経営戦略、業績、ESG  
情報などの財務情報・非財務  
情報をあわせて掲載。



### ESGデータブック



ESG(環境・社会・  
ガバナンス)に関す  
る取り組みやデータ  
について掲載。



### 決算データシート



過年度の決算  
関連計数について、  
Excel形式で掲載。



### インベスターズガイド



当社グループについて、  
基本情報やセグメントご  
との事業内容などを掲載。



### 事業別説明会資料



過去に実施した  
事業別説明会資料を掲載。



### 個人投資家向け資料



過去にオンラインで実施した  
個人投資家向けの  
会社説明会資料を掲載。



### お問い合わせ先

コーポレートコミュニケーション部  
03-6865-3002



### 当社HPアドレス

<https://www.mitsubishi-hc-capital.com>



三菱HCキャピタル

検索



## CMタイトル

「挑戦する力を、リースする会社。」



## CMギャラリー

CMおよびCMの  
メイキング映像を  
公開しています。



### CM



「壁破り」篇  
15秒



「アーブルクロス引き」篇  
15秒

### Making



